

令和5年度 奈良県立大和広陵高等学校 学校評価総括表

年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	スローガン <スポーツ（部活動）をとおしての人づくり> ・教育活動を通して、一人一人の進路実現、自己実現を目指します ・体育活動、スポーツ活動を通して、健やかな身体、健全な精神を育てます ・地域での活動や社会参加活動を通して、地域と融合し地域の活性化に寄与する人材を育てます
年度重点目標	(1) 学習意欲を喚起し、確かな学力の育成を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 (2) ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身に付けさせる。 (3) 清掃活動をとおりて協調性を育成すると共に、みんなで使う場所を大切に公共心を養う。 (4) 部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることを通して、豊かでたくましい心身の育成を図る。 (5) 学校評価の推進を図る。 (6) 情報の収集及び広報（情報発信）の強化を図る。 (7) 「学校運営協議会（コミュニティースクール）」を充実させ、地域との連携・協働を図り、地域と共にある学校づくりを進める。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	<p>本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学業をはじめ、学校生活に前向きに努力できる生徒</li> <li>・何事においても、仲間と協調して取り組める生徒</li> <li>・中学校において、学級活動、生徒会活動、部活動等に積極的に参加し、高校入学後も継続して活動する意思をもっている生徒</li> <li>・体育活動、スポーツ活動に興味、関心のある生徒</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	<p>本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学び、確かな基礎学力を培う授業の実践</li> <li>・キャリア形成において、生涯を見通したコミュニケーション力、表現力、問題解決力の育成を目指した教育活動の実践</li> <li>・地域での活動や社会参加活動を通して、他者尊重の姿勢を育み、自己肯定感・有用感の醸成を図る教育活動の実践</li> <li>・将来、地域や社会に貢献できる人物の育成を目指し、スポーツ・文化的活動を通して探求的な活動や地域への支援・交流活動を行う</li> </ul>
育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	<p>本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成を目指した学習を通して、自ら考え、学ぶ力と探究する心</li> <li>・心身を鍛え、進路を拓く確かな学力を身に付け、将来地域に貢献していく志</li> <li>・スポーツ、文化的活動を通して培う高い人間力</li> </ul>

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価	改善方策（案）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	・体力の向上と運動習慣の定着  <担当部> 保健体育部	・生徒アンケートにおいて、「スポーツテスト、日々の体育授業のトレーニングを通して、前年に比べ体力の向上がみられた」回答80%以上	・生徒アンケートにおいて、「スポーツテスト、日々の体育授業のトレーニングを通して、前年に比べ体力の向上がみられた」回答70%以上	・本年度のアンケート結果は昨年と変わらず60%となり変化はなかった。	・授業時のトレーニングや10分間走は各学年毎時間実施することができた。	・体力の向上を目指し、継続した取り組みができていた。毎時間のノルマをこなすだけでなく、年度を重ねる毎に、前年の記録を上回るよう生徒の目標に対する意識を改革していきたい。	
	・部活動の活性化  <担当部> 保健体育部 生徒指導部	・新入生、部活動加入率90%以上 ・部活動集会の実施、運動部に1回・文化部学期に1回、合同で学期に1回の開催 ・地域の小・中学校の部活動やスポーツ団体等との交流	・新入生、部活動加入率70%以上 ・部活動集会の実施、運動部に1回・文化部学期に1回、合同で学期に1回の開催 ・地域の小・中学校の部活動やスポーツ団体等との交流の実施	・新入生の部活動加入率は67%、学校全体では59%で、概ね変化はなかった。 ・部活動集会は、計画どおり実施ができた。清掃作業や部室管理など、生徒の自主的な運営になるようその意識を高めた。 ・地域交流なども、計画的に実施でき、生徒にとって有意義な活動となった。	・部活動加入率はもう少しで達成、部活動集会は目標達成できた。毎回の内容も充実し生徒の意識向上に繋がった。 ・スポーツの交流は復活してきている。有意義な取り組みとして今後も進めていきたい。	・新入生対象の体験入部をさらに充実させ加入者を増やすとともに、中学生、小学生とのスポーツ交流を重ねて本校の部活動の活性化に努めてほしい。	・新入生の部活動加入率が70%になるよう、部活動の活動計画やルールをより明示することが必要である。
	・基本的な生活習慣の確立  <担当部> 生徒指導部	・欠席、遅刻、早退数の前年度比10%減少 ・生徒アンケートにおいて、「適切な言葉遣いで、あいさつ・敬語の使用ができる」回答85%以上 ・清掃活動の充実、運動部と文化部・各委員会等が定期的に合同清掃を実施	・欠席、遅刻、早退数の前年度比10%減少 ・生徒アンケートにおいて、「適切な言葉遣いで、あいさつ・敬語の使用ができる」回答90%以上 ・清掃活動の充実、運動部と文化部・各委員会等が定期的に合同清掃を実施	・欠席、遅刻、早退数の前年度比10%減少 ・生徒アンケートにおいて、「適切な言葉遣いで、あいさつ・敬語の使用ができる」と回答している。 ・生徒アンケートの「適切な言葉遣い、挨拶、敬語」については、96%の生徒ができていたと回答している。 ・合同清掃については、部活動集会を経て、計画的、適切に活動し、環境・意識も高くなりつつある。	・遅刻率は、微減したものの昨年と大きく変化はなかった。しかし、遅刻連絡が増え連携がとれるようになっている。 ・生徒アンケートの「適切な言葉遣い、挨拶、敬語」については、96%の生徒ができていたと回答している。 ・合同清掃については、部活動集会を経て、計画的、適切に活動し、環境・意識も高くなりつつある。	・欠席、遅刻、早退数はやや減少にとどまったが、無断行動は減少した。 ・挨拶、言葉遣いに対する意識、清掃活動は目標を達成できている。	・先生方の粘り強く、丁寧な指導の繰り返しで生徒たちは落ち着いて学校生活を送れているようである。継続した指導をお願いしたい。 ・次年度は、特に遅刻の減少に向けより一層努力してほしい。 ・遅刻については、ヤングケアラーの視点も考慮する必要があると思います。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・観点別評価の充実  <担当部> 教務部	・生徒アンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組んだ」回答95%以上 ・生徒アンケートにおいて、「学習の成果がわかりやすく評価され、学習を進めるために役立っている」回答85%以上	・生徒アンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組んだ」回答95%以上 ・生徒アンケートにおいて、「学習の成果がわかりやすく評価され、学習を進めるために役立っている」回答75%以上	・生徒アンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組んだ」回答90.2%以上 ・生徒アンケートにおいて、「学習の成果がわかりやすく評価され、学習を進めるために役立っている」回答91.0%以上	・目標達成できた。更に生徒の意欲向上に向け取り組みたい。また家庭学習に対する意識を高めていきたい。	・生徒自ら問題解決を行い、PDCAサイクルのもと、学習を深めていく習慣をつくることは重要である。次年度以降ICTの活用やグループワークなどをより一層進めてもらいたい。	・観点別評価の実施により、家庭学習の機会が増えたが、家庭での学習習慣がないまま入学し、その改善がなされていない生徒も多い。学習習慣の改善意識はあっても実行できない生徒や家庭での指導意識の向上にたいし、どのように対応するか、今後も継続して効果的な方策と取り組みを各教科・科目等で横断的に立案し、実行していく必要がある。
	・魅力と活力のある学校づくり  <担当部> 生涯スポーツ科	・野外活動、水上、スキー（4級検定合格10%以上）等のスポーツ実習の充実についての生徒満足度80%以上 ・体育大会、球技大会等行事の充実についての生徒満足度80%以上	・野外活動、水上、スキー（4級検定合格10%以上）等のスポーツ実習の充実についての生徒満足度80%以上 ・体育大会、球技大会等行事の充実についての生徒満足度80%以上	・スキー実習において、検定を受検した者全員が4級合格することができた。野外活動や水上実習においても生徒の満足度は高く、充実した実習となった。 ・春季球技大会に新しい取組を取り入れるなど工夫を凝らし、体育行事全体的に満足度が高いものとなった。	・スキー検定は3級から4級に変更し全員が達成。 他の実習、体育各行事の充実満足度はすべて達成できた。	・実習の見直し、部活動の強化指定、地域とともにある学校づくりなど積極的な取り組みが魅力と活力のある学校づくりに繋がると思っています。	各実習、体育行事を振り返り、次年度に向けてより充実した体育活動となるよう丁寧な計画をすすめていく。

	<p>・オンライン教育の推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 環境企画部</p>	<p>・ICTを活用した指導の充実、教員アンケートにおいて、授業でのデバイス使用80%以上</p> <p>・教員の情報研修を年間2回以上実施し、指導力の向上を図る</p>	<p>・ICTを活用した指導の充実、教員アンケートにおいて、授業でのデバイス使用80%以上</p> <p>・教員の情報研修を年間2回以上実施し、指導力の向上を図る</p>	<p>・デバイス使用については、80%以上を達成した。</p> <p>・研修については未実施。</p>	<p>・概ね達成できた。次年度から全学年が対象となり、より充実した指導となるよう個人、全体の研修を行い指導力向上に努めていきたい。</p>	<p>・BYODの導入により1人一台端末を使用した授業が展開されているのがわかった。これからの社会を生き抜くためにそのアイテム能力は不可欠であるICT教育について正しいメディアリテラシーを身につけていけるよう研究、研修に努めてほしい。</p>	<p>職員への研修は行えなかったが、全体的にICT機器を使用した授業実践は浸透してきている。業務量の削減や、効率化に繋がるように今後も研修等を行っていく必要がある。</p>
	<p>・学校における働き方改革</p> <p>&lt;担当部&gt; 総務部</p>	<p>・タイムカードを利用した客観的な方法による勤務時間の把握90%以上</p>	<p>・タイムカードを利用した客観的な方法による勤務時間の把握90%以上</p>	<p>すべての教員がタイムカードを利用し、勤務時間を把握することができた。</p>	<p>・目標達成ができた。勤務時間管理、働き方改革にさらに意識が高まるようにしていきたい。</p>	<p>・業務の効率化、情報化を図るとともに、リーダーシップ、意思疎通、協働体制を作り気持ちよく働くことができる環境作りが肝要である。</p>	<p>部活動終了後のタイムカード打刻忘れが解消されれば、より正確な勤務時間の把握が可能となる。</p>
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	<p>・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実</p> <p>&lt;担当部&gt; 進路指導部</p>	<p>・キャリアパスポートを通して、目的意識を明確にし、自己実現に向かう姿勢を育てる(4月実施の進路希望調査における「未定」回答者の50%減)</p>	<p>・キャリアパスポートを通して、目的意識を明確にし、自己実現に向かう姿勢を育てる(4月実施の進路希望調査における「未定」回答者数、前年度比50%減)</p>	<p>・令和4年度進路希望調査で「未定」と回答した者2学年=20名、3学年=24名、合計44名</p> <p>・令和5年度進路希望調査で「未定」と回答した者2学年=6名、3学年=1名、合計7名と減少した。</p>	<p>・目標の達成ができた。さらに自己の進路に向けて意識の高揚をはかり、日々の学校生活の充実に繋げていきたい。</p>	<p>・キャリアパスポートを始め、講演会、個人面談などを通して自己を知る機会を多く提供してほしい。</p> <p>・少しでも早く自分の進路について考え、目標を持つことが必要ではないかと思う。一人一人に寄り添った指導を今後もお願いしたい。</p>	<p>総合的な探究の時間等を活用し、1年次より進路への関心を持たせていくことができた。引き続きより具体性を持たせていく取り組みを進めていきたい。</p>
	<p>・インターンシップの推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 進路指導部 環境企画部・保健体育部</p>	<p>・一般企業、役所、スポーツ施設等との連携を強化し、生徒の職業意識を高める取組を充実する</p> <p>・インターンシップなど就業体験への参加生徒を現状比200%に増大させる</p>	<p>・一般企業、役所、スポーツ施設等との連携を強化し、生徒の職業意識を高める取組を充実する</p> <p>・インターンシップなど就業体験への参加生徒を現状比150%に増大させる</p>	<p>・学校独自で計画し実施するインターンシップの実現が難しい状況であり、今後も方法等の検討を要する。</p> <p>・キャリアサポートセンターから紹介していただく機会を活用しており、毎回申し込み希望者もいるが、人数を増やすというよりも、「ためになる機会を提供する」ことに目標設定を改める必要性を感じる。</p> <p>・令和4年度参加者=のべ13名、令和5年度参加者=のべ5名</p>	<p>・広陵町と連携機会が増え学びの幅が広がった。次年度、企業、施設へと連携拡大を目指したい。</p> <p>・インターンシップの参加のあり方を再構築することが求められる。</p>	<p>・インターンシップや職場見学の実験は、良い経験値となっていると思います。</p> <p>・地元との連携ができつつあるので、地域の施設や、地元企業等において就業体験を行うのもよいのではないかと。また、インターンシップに代わる各種セミナーや体験談を聞く機会には大いに参加させてほしい。</p>	<p>インターンシップの持つ意味をより細かく具体的にし、どのような関わり方をするのがより有益かを検討していきたい。また学校独自の実施も進めていきたい。</p>
	<p>・地元企業との連携の推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 進路指導部</p>	<p>・進路説明会への地元企業の参加増加を促進</p> <p>・1年フィールドワークを通して地元企業とのコラボ企画を目指す</p> <p>・参加生徒の満足度80%以上</p>	<p>・進路説明会への地元企業の参加増加を促進</p> <p>・1年フィールドワークでの地元企業とのコラボ企画を目指す</p> <p>・参加生徒の満足度75%以上</p>	<p>・進路説明会への地元企業の参加数は昨年と同じ、変わりはない。</p> <p>・地元企業との連携をもっと広めていく必要がある。その上でコラボ企画を進めていけるようにしたい。</p>	<p>・フィールドワーク参加生徒の満足度は、目標値達成できたが、地元企業とのコラボ企画はさらに検討が必要である。</p>	<p>・学校外の教育力の活用で進路指導やキャリア教育の推進を図ってほしい。</p>	<p>フィールドワークを通して広陵町、地元企業との関係づくり、共同作業の取り組みを今後も進めていきたい。高大連携をはじめ学校外の教育力を活用し、キャリア教育の推進を図っていく。</p>
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	<p>・学校運営協議会による活動基盤の構築</p> <p>&lt;担当部&gt; 環境企画部</p>	<p>・学校運営協議会の委員が主導して、年間2回以上を開催し、地域との連携を推進する</p>	<p>・学校運営協議会の委員が主導して、年間2回以上を開催し、地域との連携を推進する</p>	<p>・年間3回の実施ができた。</p>	<p>・開催回数、組織の運営形態の確立ができた。実働に向け協議を重ねていきたい。</p>	<p>・地域とともにある学校づくりのために更なる充実を願う。学校を含め、会員との連携、連絡を密にする。</p> <p>・地域のイベントや清掃活動などにも参加し、ボランティア活動を続けていくといいと思います。</p>	<p>例年よりも充実した内容にて協議会にて議論を重ねることができた。話し合った内容については、絵に描いた餅にならぬよう現実味をもって主体的に進めていく必要がある。</p>
	<p>・地域理解を深める取組の推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 進路指導部 環境企画部</p>	<p>・奈良TIMEのフィールドワークなどの活動を通して、地域理解を深める。生徒アンケートにおいて、目標達成に関する満足度80%以上</p>	<p>・奈良TIMEのフィールドワークなどの活動を通して、地域理解を深める。生徒アンケートにおいて、目標達成に関する満足度75%以上</p>	<p>・フィールドワーク後にアンケートを実施。約88%の生徒が「満足した」もしくはそれ以上の手応えを感じたと回答している。</p>	<p>・計画、事前学習、まとめ学習を行い地域の文化、産業について理解を深ることができた。そして、関係者を招待しての発表会を行うことでより取り組みの充実感を増すことができた。</p>	<p>・総合的な学習の時間などで、地域の自然・文化・産業等について、学び、体験して発信していく取組を進めることができると良いと思う。</p>	<p>一連の活動を通して、地域理解を深めることができた。生徒の満足度も高く目標を達成することができた。さらに他種、広範囲に理解を深めていきたい。</p>
	<p>・社会教育の推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 環境企画部 総務部</p>	<p>・地域の関係機関との連携を強化し、地域のイベント、施設・企業との連携事業を立ち上げ、満足度90%以上とし、学校イメージの改善に繋げる。</p>	<p>・地域の関係機関との連携を強化し、地域に向けた交流事業を立ち上げる。</p>	<p>広陵町の協力を得て、スポーツ、科学、芸術分野において親子体験教室「広陵げんキッズ」の開催ができた。</p>	<p>・新たな取り組みを行うことができた。地域との連携のため継続した取り組みにしていきたい。</p>	<p>・広陵町のこども園、幼少との訪問、スポーツテスト補助や行事等を通して、協力して社会に貢献する意識や態度育てている。引き続き取組をお願いしたい。</p>	<p>地域に根ざした事業の一つとして実施することができた。より充実したプログラムを今後も練る一方、年度当初にしっかりと活動計画を示し、協力体制を確立し、参加者募集に尽力すべき。さまざまなアカデミックな内容を職員全体で構築しているよう共有していく。</p>
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	<p>・人権教育の推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 人権教育部</p>	<p>・人権意識の向上と人間関係づくりの充実</p> <p>・生徒アンケートにおいて、「人権HR活動を中心とした校内活動や地域協働活動を通して、人権意識が向上した」回答80%以上</p>	<p>・人権意識の向上と人間関係づくりの充実</p> <p>・生徒アンケートにおいて、「人権HR活動を中心とした校内活動や地域協働活動を通して、人権意識が向上した」回答80%以上</p>	<p>・人権HRをはじめ各種HRにおいて、生徒の人権問題にかかる意識やクラスでの人間関係の育成に努めた。「人権意識が向上した」と感じる生徒は90.2%であった。</p>	<p>・目標達成できた。更に充実した活動に向け進めた。</p>	<p>・人権HR学習を始め、人権教育の日常化を目指して、教職員の意識の向上やスキルアップを図ることが肝要である。</p>	<p>人権HR計画に従い進めることができ、目標達成することができた。さらに人権意識向上に努めたい。</p>
	<p>・いじめ防止方針に基づく取組の推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 生徒指導部 人権教育部</p>	<p>・いじめ防止基本方針の点検・見直しと、いじめアンケートの年間2回以上の実施</p> <p>・人権HR活動を中心とした豊かな情操の育成</p>	<p>・いじめ防止基本方針の点検・見直しと、いじめアンケートの年間2回以上の実施</p> <p>・人権HR活動を中心とした豊かな情操の育成</p>	<p>・いじめアンケートについて、毎回数名程度いじめ被害の申告者が出た。早急に聞き取り、事実確認の上、生徒への対応を行った。</p> <p>・人権HRでは、いじめ問題や障がい者・外国人差別など多様な問題を展開し、生徒の意識向上に努めた。</p>	<p>・目標達成できた。人権HRでは、他の分野においても理解が深まるよう進めたい。</p>	<p>・生徒、教職員で「いじめ」を生まない学校づくりに務めるとともに、生じたときの指導体制を全員で共有することが求められる。</p>	<p>いじめアンケート後の対応が迅速かつ適切に進められた。人権HRでは体験的な内容等もあり、興味関心をもって参加できている。</p>
	<p>・特別支援教育の推進</p> <p>&lt;担当部&gt; 教育相談室 生徒指導部・人権教育部</p>	<p>・カウンセリング、特別支援(通級)指導におけるスクリーニング会議の実施</p> <p>・ストレスチェックアンケートを年2回実施</p> <p>・カウンセリングだよりの発行、生徒対象年間10回、保護者対象年間1回</p>	<p>・カウンセリング、特別支援(通級)指導におけるスクリーニング会議の実施</p> <p>・ストレスチェックアンケートを年1回実施</p> <p>・カウンセリングだよりの発行(生徒対象年間3回、保護者対象年間1回)</p>	<p>・令和5年度の目標はそれぞれ達成されている。</p>	<p>・目標達成できた。更にきめ細かな対応に向け、取り組みたい。</p>	<p>・生徒理解のための研修等を行い、支援に必要な生徒の情報を共有して、具体的な支援に向けての体制づくりが必要であると思う。</p>	<p>・室会議や、教育相談委員会だけでなく、もう少し小規模な単位での会議の必要性を感じた時があった。今後の課題である。</p>
	<p>・通級指導参加生徒の満足度90%以上</p>	<p>・通級指導参加生徒の満足度90%以上</p>	<p>・通級の巡回指導担当教員が、コミュニケーションをとりながらきめ細やかに授業を展開し、参加生徒も熱心に取り組んだ。</p>	<p>・今年度1名受講、次年度は参加者の増加を予定している。充実した取り組みにしていきたい。</p>	<p>・通級や教育相談活動を丁寧に行っておられる。さまざまな生徒への対応、一人も見逃さない姿勢が大切である。継続しての指導をお願いしたい。</p>	<p>・学年だけでなく、学校全体に周知していく必要性を感じた。(今までも職員研修や、通級便りを発行しているが)</p>	

### 3 評価結果の分析、今後の改善方策等

・5月にコロナウイルス感染症が第5類と分類され、学校活動は、コロナ前の状態へともどっていき、学校行事等では、生徒の行事に対する意識が高まり、学年の枠を超え、みんなで協力して実施することができ満足度も高まった。また地域活動においても復活したもの、新たな取組としてスタートできたものもあり学校の活性化に向け取組ができてきている。今年度の学校教育目標に対する取組の達成度は、概ね達成することができており、中には上回ったものもある。次年度、BYODによる1人一台端末、電子黒板、観点別評価が全学年で統一され業務の統一化、効率化に向け進めていくとともに、個々の生徒に対して手厚く、粘り強く一人一人と向き合い教育活動を進めていきたい。

・学校満足度(私は子どもを大和広陵高校に入学させて良かった)の質問に対し、「そう思う」、「どちらかというそう思う」と回答した保護者は93.7%であった。また、「私は、大和広陵校に入学して良かったと思っている」の質問に対し、「そう思う」、「どちらかというそう思う」と回答した生徒は78%であった。

